

MEDLINE のコアクリニカルジャーナルを用いた 医学論文の分析

村上陽菜, 井上 彰, 村上貴久
一般財団法人 日本医薬情報センター

【目的】医療や学術研究における文献情報のインフラストラクチャである MEDLINE (PubMed) は、症例報告や主に臨床研究におけるシステマティックレビューで最先端の基礎研究を検索するために最も利用される文献データベースであるが、その掲載内容について検証されることはあまりない。国内では MEDLINE と EMBASE の掲載論文を医薬品の観点から分析した先行研究があり¹⁾、私たちも医薬品の安全性情報の収集について MEDLINE と EMBASE を比較する分析を行っている²⁾。本研究では、将来的にデータベースの比較により医薬品の有効性・安全性情報の文献検索についてその特徴を検討することを考慮しつつ、まずは MEDLINE を元に、2004 年から 2013 年のコアクリニカルジャーナルの掲載論文について書誌事項や索引の傾向を分析する。

【方法】MEDLINE はコアクリニカルジャーナル (Abridged Index Medicus, 以下 AIM という) として 119 誌 (2015 年 5 月現在) を選定している。2004 年から 2013 年の 10 年間に於いて、AIM に掲載された論文数、論文の書誌事項、論文に付与された索引などを経年的に観察、分析することで、近年の医学論文の特徴を明らかにする。

【予想される結果】多くの研究で論文総数の増加が指摘されているが、直近 10 年間の AIM でも 53,486 論文 (2004 年) から 59,019 論文 (2013 年) と微増している。特に顕著なのが発行形態の変化で、2004 年には 39,434 論文が冊子体 (Print) で刊行されていたが、2013 年には 628 論文までに減少し、逆に電子ジャーナルの論文 (Electric) は 14,052 論文から 58,391 論文に激増している。10 年間で主な掲載媒体を冊子体から電子ジャーナルに変更した雑誌は 118 誌中 101 誌となり、この 10 年で学術論文の掲載媒体が紙から電子へと大きく転換したことが分かる。10 年間電子ジャーナルのみ、あるいは冊子体のみの雑誌と比べ、冊子体から電子ジャーナルへ変更した雑誌の論文数の増加率が最も高くなっており、論文数の増加に掲載媒体の変更が影響している可能性が考えられる。

発表では、10 年間のデータを連続的に分析し、掲載媒体の転換がいつ生じたのかなど経年変化を追うとともに、索引についても調査しより発展的な考察を行いたい。

- 1) 小河邦雄. PubMed と MEDLINE とその他のデータベースの比較. 薬学図書館. 2006, 51(4), p.287-298.
- 2) 井上 彰, 村上陽菜, 村上貴久. 医薬品の文献検索における異なるデータベースの特徴の調査. 第 18 回日本医薬品情報学会総会・学術大会. 岡山. 2015-06-27/28.